

古川郷土民芸会館でも、山城の発掘調査と、飛驒の地を駆け抜けた武将たちの紹介パネルの掲示をしています！！

姉小路氏 飛驒国司家・古川盆地

姉小路氏は会家の一族で、藤原氏を祖とする藤原北家小三流の末裔にあたります。飛驒に所領を得たのは鎌倉時代です。14世紀前半に、15世紀初めに古川、小島、向(後の小鷹利)の3に分家します。この3家が持った想定される領域が古川郡・小島郡・小鷹利郡という近世の郡に引き継がれたと考えられます。

家柄の直系である齋藤、持氏は京都で活動しています。持言の子、小島齋は在地の小島郡を中心に活動しています。古川氏の小島郡を治り、齋藤が永享18年は古川郡を高麗とし、齋藤が永享18年

江馬氏 北飛驒・高原郷の有力武士

江馬氏は北飛驒の高麗郡(現在の飛驒市神岡町、高山市上馬辺町)を拠点とした武士です。本拠地の東村に下郷と本郷・高麗高麗城を築き、周辺の街道に交差する山城を築き守りつづけてきました。

江馬氏は13世紀初めに飛驒に入るとされます。その出自については鎌倉幕府で飛驒の北家氏との関連が知られますが、詳細は不明です。応永5年(1322)、天龍寺守護の権限において江馬忠房が飛驒守の職を引きつづけたという記録から、このころ江馬氏は家督継承する武士であったことが分かります。その後、15世紀後半までの記録から、山内家等の支配の勢力の南限に達したことが、解明されています。

三木氏 飛驒の下郷上を体現した一族

三木氏の史料初見は文明3年(1571)のことです。このころは飛驒軍の急進を拒否し、守もせずは中郷に入り、守領の影響が及ばなくなる勢力を体現しました。前年の代には扇針城を築いて山内郡の岡を支配し、古川氏の勢力を拒否する姿勢をとりつづけています。古川家にも影響を及ぼしています。

貞観の代には、扇針に建てられた式部小右衛門の家を継ぎます。小鷹利、小島を奪取します。さらには扇針、上郷、下郷の中で上郷に

金森氏 飛驒国の近世を形

金森氏は奥道・十枝氏の後継と伝わりますが、詳細は不明です。長近は奥道に生まれ、幼少より齋藤長兵衛に仕え、天正3年(1575)に長兵衛に戦った。天正12年(1584)には「小佐」で、天正13年(1585)には「小佐」で、長久手合戦の際、飛驒に侵入し、飛驒を築きます。天正13年(1585)、長久手合戦の際、飛驒に侵入し、飛驒を築きます。天正13年(1585)、長久手合戦の際、飛驒に侵入し、飛驒を築きます。

長近の嫡子・長嗣は「本能寺の変」で死去したため、長嗣から養子に迎えられた武蔵が跡を継ぎます。可重は飛驒攻めに従軍し、飛驒の高麗郡に侵入し、飛驒を築きます。飛驒の高麗郡に侵入し、飛驒を築きます。

山城で建物を発掘する

● 建物の形と年代が分かるのは2棟
● 2つの建物で

遺跡の南には、小島城跡の2つの山城跡があり、遺物の調査が完了しています。建物の形状が明確であるのは2棟です。また、遺物の調査が完了しています。

● 2棟の礎石建物は年代差がある

古川城跡の礎石建物は、3棟の礎石建物のうち、2棟の礎石建物が残っています。建物の形状が明確であるのは2棟です。また、遺物の調査が完了しています。

山城の使われ方に迫る

山城は時代のうつり変わりと共に姿を変える

山城の使われ方によって、その形や構造も変わります。また、遺物の調査が完了しています。

■ 古川郷土民芸会館

場所 岐阜県飛驒市古川町若宮2-1-58
開館時間 9時～17時
 (入場は16時30分まで)
入館料 無料
 ※隣的美術館は、有料となります。
休館日 月曜日
 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
アクセス 街なかポケットミュージアムから
 徒歩では15分
 車では5分(市営若宮駐車場をご利用下さい。)

